Locus isteの逐語訳

（この場所は、神の造りたまえるところ）

聖路加国際病院礼拝堂聖歌隊　川津泰人　平成26年11月

本解説書は、Locus isteを一緒に歌う合唱仲間の為にまとめた物で、従来の意訳中心の解説からよりわかりやすく言葉を中心とした逐語訳に重点を置いたものです。意訳は左の原文に会うように並び替えてあります。

従って、かなりの部分を辞書を参考に活用形の前の原語を表した。 間違いあればご指摘していただければ幸いです。ラテン語読み方については、主なものとして、古典式、イタリア教会式、純イタリア式、ドイツ式があるがここでは、現在のイタリア語標準語である純イタリア式を採用した.（他に仏式,スペイン式などあり）　Tiの発音：①tiプラス母音の場合は、ツィtsの発音、pontio″,etiam,tertia,consubstantialem,resurrectionem,deprecationem,orationem,auditione,gratiasなどはツイと発音、②tiプラス子音：tibi,timebit などはティと発音する.　教会式は1903年教皇ピウス十世がMotu Proprioとしてカトリック全体に推薦したもので純イタリア式と最も異なるのはMihi,Nihilの発音、教会式はミキ、ニキル(古典式と同じ)、純イタリア式はミーイ、ニイルとなる点、　ドイツ式は注ごご参照

下記の参考資料（辞書類は主に白井図書館所蔵書を利用）も大いに役立ちました。また、ミサ曲、ラテン語・教会音楽ハンドブックの著者三ヶ尻さまに貴重なアドバイスも頂きました(三ヶ尻様のUR　http://www.geocities.co.jp/MusicHall/4061/)。まだまだ不十分な面もあり、今後とも改善しようと思っておりますので、何かアドバイス頂ければ幸いです(メールアドレスmondomusicale2006-hp@yahoo.co.jpへ,ダウンロードの為のURは　http://www.geocities.jp/pacificostluke/　ご参照)。

参考資料：ミサ曲、ラテン語・教会音楽ハンドブック(三ヶ尻正ショパン)、音楽大辞典第5巻（平凡社）、クラシック音楽事典(平凡社)、ラルース世界音楽作品事典(福武書店)、岩波きりスト教辞典、聖書百科全書(三省堂)、聖書思想事典(三省堂)、聖書人名事典(教文館)、新約聖書人名事典(東洋書林)、羅和辞典（研究社）、羅和字典（南雲堂フェニックス）、和羅小事典（国際語学社)、新ラテン文法

Locus iste この場所は	Locus	iste	a	Deo	factus	est,
	場所、居所、地位	この、あの、君の	によって、から=ab	神	作られたfacio受身	であるsum受動態助動詞
	locus	iste	a	Deo	factus	est,
	場所、居所、地位	この、あの、君の	によって、から=ab	神	作られたfacio受身	であるsum受動態助動詞
	a	Deo,	Deo	factus	est.	
	によって、から=ab	神	神	作られたfacio受身	であるsum受動態助動詞	
	inaestimabile	sacramentum,	inaestimabile	sacramentum,		
	評価しがたい、非凡な	秘跡	評価しがたい、非凡な	秘跡		
	irreprehensibilis	est,	irreprehensibilis	est,		
	責められない	であるsum	責められない	であるsum		
	irreprehensibilis	est,	irreprehensibilis	est,		
	責められない、申し分のない	であるsum	責められない、申し分のない	であるsum		
	Locus	iste	a	Deo	factus	est,
	場所、居所、地位	この、あの、君の	によって、から=ab	神	作られたfacio受身	であるsum受動態助動詞
	locus	iste	a	Deo	factus	est,
	場所、居所、地位	この、あの、君の	によって、から=ab	神	作られたfacio受身	であるsum受動態助動詞
	a	Deo,	Deo,	Deo		
	によって、から=ab	神	神	神		
	a	Deo,	Deo	factus	est.	
	によって、から=ab	神	神	作られたfacio受身	であるsum受動態助動詞	
標準的意訳	口語訳 この場所（教会)は、神の造りたまえるところ 比類なき秘蹟は、決して誤ることなきものなり。					
	現代語訳 ここは、あたい（値）のつけがたい神秘なる神によって造られた所です。 そこは、欠けたところがありません					

ブルックナー作曲<モテット>より「ロクス・イステ」

Locus iste of Motteten by Anton Bruckner (1824-1896)

モテットのなかでは、Ave Maria、Os justi、Christus factus est、Virga Jesse、Vexilla regisなどと並んでよく演奏される曲のひとつです。

″**Locus iste**″は1869年8月11日の日付が付けられており、同年9月の新リンツ大聖堂の献堂式で歌われた。

固有文（教会の暦によって変わる文Proprium）の中のGradualで歌われる。この場所とは、教会又は教会堂の内陣・チャンセル（もともとは祭壇の前、一般的には司祭やクワイヤーを含んだ東側一帯を指す

＜参考情報＞

A.Bruckner（1824～1896）作曲：アントン　ブルックナー、

オーストリアの作曲家。交響曲とミサ曲の大家。徹底的にカトリック信仰に生きた音楽家として知られています。19世紀後半最大の教会音楽家である彼は、交響曲の精神的要素や技術的要素を、宗教的な詩に対する敬虔で典礼的な扱い方と結びつけました。この Tantum ergo はカトリックのミサの中でも、特に聖木曜日とキリストの聖体の祝日（聖公会では聖霊降臨後第2主日）、および随時行われる聖体賛美式で使われるモテットです。

ミサとは	もともとは解散という意味ーIte,missa　estここで会は終わるので解散 キリストと弟子たちの最後の晩餐を象徴的に再現するキリスト教会の最も重要な典礼、その基本は、キリストの体と血になぞらえパンとぶどう酒を捧げ、神に感謝し、次いでパンを裂き、信者に分かち与えることからなる.楽曲としては、Offertoium（奉唱歌)、Sanctus、Agnus Dei、Communio（聖体拝領唱）が上記の項にそれぞれ対応する
油	穀物、ぶどう酒と並んで神の祝福の徴（しるし）と考えられ、これを欠くことは不忠実に対する神罰、これが豊かに恵まれることは救いを意味する。聖なる油の注油は信仰者に聖霊の多種多様な恵みを伝える. 聖書では、神の祝福、聖別の象徴であり、祭司、王、預言者の努めを授ける際に油が注がれた.
聖別	ある人や、物、場所や時を神に捧げること、又は捧げる者/物を、　他の者/物と区別すること..最も重要な聖別はキリストの定めた言葉（聖別句）を唱えることによってパンとぶどう酒がキリストの体と血になるという出来事
旧約 Vetus　testamentu	イエスの死と復活に神と人間との関係の刷新と考えそれを新しい契約-新約,イエス以前の契約を旧約と呼ぶ、その中で特に重要なも 他に、ノア契約,アブラハム契約、ダビデ契約,などがある
秘蹟＝sacramento	
	sacramento」とは、キリスト教で、キリストによって定められた恩恵を受ける手段・方法。聖公会では聖奠、ローマ教会では秘跡、ギリシャ正教では機密と称し、7つある。プロテスタントでは礼典または聖礼典と称し、洗礼と聖餐の2つだけ。（「広辞苑」より）
モテット	
	モテットとは（motet[英・仏], motetus[羅], motetto[伊], Motette[独]）　mot(語)というフランス語に由来するモテットは、13世紀から近代にかけて行われたところの、主として教会的な比較的短い声楽系楽曲である。　一般には、16世紀頃盛んであった詩篇などの聖書の言葉を歌詞とする無伴奏多声的合唱曲をさしているがモテットの時代的変遷は相当に著しいものであるため、これを一律に定義つけてしまうのは困難である。（「合唱事典」より）
ドイツ式ラテン語読み（主要な	c(e,iの前でツィ、pacemパーツェム)、sc（a,o,uの前でkse,Iの前でstsu--suscipe,ススツィペ）,gn/gl（そのまま発音agnusアグヌス）,gu+母音＝gu＋母音（gv--sanguineサングヴィネ,kv――quiクヴィ）,hはよむ,e（ドイツ式に発音meserere――ミゼレイレ,laudamus　te―ティー）

Fiar justia,ruat caelum 正義を行うべし、たとえ天が崩壊するとも

Midi File	http://www.geocities.jp/pacificostluke/locus.mid

Midiを開くときはブラウザーの ファイル 開く として上記URアドレスを入れて開いてください